

遮熱処理とフルメット処理の併用による トマト放射状裂果の軽減技術

トマトの夏秋雨除け栽培では、近年、温暖化の影響で夏季に放射状裂果が増加し安定生産が困難となっています。この対策として、岡山県農林水産総合センター農業研究所では、これまでに「遮熱処理（レディヒートのハウス天ビニール塗布）」と「フルメット処理（フルメット液剤の幼果への散布）」は収量を落とさずに裂果を軽減できることを明らかにしてきましたが、これらの対策技術を併用した場合に、裂果の軽減効果が更に高まることを明らかにしましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 遮熱処理はハウス天ビニール1,000 m²あたりに遮熱資材（商品名：レディヒート）3缶を水120リットルに希釈し、梅雨明けから9月上旬まで塗布します。フルメット処理は裂果が多発する各果房（4～7段）について、最大果の直径が3.0～4.9cmの時期に20ppmに調製した溶液5mlを果実、がく、小果梗及び果梗にかかるようスプレーで散布します。
2. 単独での遮熱処理またはフルメット処理は、裂果が多発する果房（4～7段）においてそれぞれ放射状裂果指数及びくず放射状裂果率が低下し（図1）、可販収量が増加します。遮熱処理とフルメット処理を併用すると、特に裂果の多い6～7段において単独処理より裂果軽減効果が高くなります（図1）。

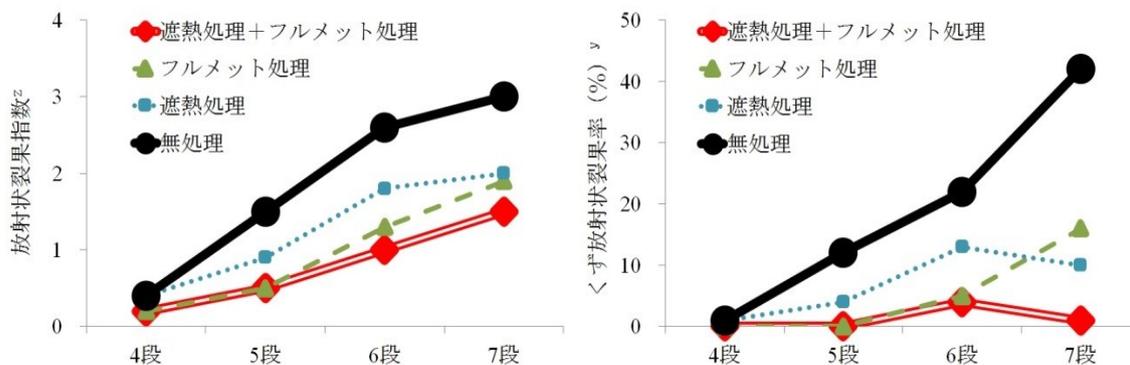


図1 遮熱処理とフルメット処理の併用が果房着生段毎の放射状裂果指数及びくず放射状裂果率に及ぼす影響（2015年）

☆ 活用面での留意点

1. 遮熱処理は昇温抑制効果によって夏季高温時の生育が改善され、結果として無処理区に比べ1果重が増加する効果が期待できます。
2. 夏季に極度の日照不足が予想される場合、収量低下を防ぐため遮熱処理は控えます。
3. フルメット液剤は2016年12月14日付で、トマトの放射状裂果軽減について適用拡大登録されました。
4. 詳しいことは岡山県農林水産総合センター農業研究所高冷地研究室（TEL:0867-66-2043）までお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）